

会議議事摘録

| | |
|--------------|--|
| 会議名 | 平成 30 年度第 1 回学校関係者評価委員会 |
| 開催日時 | 平成 30 年 7 月 21 日 (土曜日) 14 : 00 ~ 16 : 50 |
| 場所 | 本校 603 教室 |
| 出席者 (敬称略) | <p>① 委員 : 伊藤雄子(保護者)、佐藤文雄(高等学校関係者)、野間 弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者) (計 6 名)</p> <p>② 学校 : 橋本正樹(校長)、宮下明久(事務局長)、小田真理子(字幕制作・速記者養成科学科長)、吉川香(医療秘書科学科長・医師事務技術専攻科長)、黒田 潔(医療マネジメント科学科長・診療情報管理専攻科長)、三宅かおり(医療マネジメント科副学科長・教務委員長) 中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子(介護福祉科学科長)、宮嶋貴与(鍼灸医療科学科長) (計 9 名)</p> <p>③ 事務局 : 高橋 稔、松本晋圭、川内靖美 (計 3 名)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計 18 名)</p> |
| 欠席者 | 前田律子(看護科担当副校長・学科長)、伊東由美(看護科副学科長)、村山由美(医療秘書科副学科長) |
| 配付資料 | <p>①事前送付 :</p> <p>□資料 1 : 平成 30 年度学校関係者評価委員会名簿、□資料 2 : 平成 29 年度第 3 回学校関係者評価委員会会議議事摘録案、□資料 3 : 平成 29 年度活動の自己評価報告書点検大項目、□資料 4 : 平成 29 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題、□資料 5 : 平成 30 年度の重点目標と達成するための計画・方法、□資料 6 : 平成 29 年度第 3 回委員会以降の主な経過報告 別添 A : 平成 30 年度校務分掌、別添 B : 平成 30 年度学事日程、別添 C : 平成 30 年度オープンキャンパス日程、別添 D : 平成 30 年度クラス担任一覧、別添 E : 平成 29 年度進路決定状況、求人状況、別添 F : 平成 30 年度 W C S P の年間計画例(医療秘書科)、別添 G : 平成 30 年度前期授業アンケート実施計画、別添 H : 平成 30 年度教員研修計画・実績、別添 I : 平成 30 年度授業公開実施要領(案)、別添 J : A O 入学者入学前指導プログラム(第 3 回スクーリング)実施報告、別添 K : 平成 30 年度医療事務分野・福祉分野教育課程編成委員会名簿</p> <p>②当日配付 :</p> <p>□平成 30 年度学生生活ガイド(看護科以外、看護科)、平成 30 年度講義要項(全学科)、2018Challenge 就職活動ノート、平成 31 年度入学案内書、平成 31 年度募集要項、平成 31 年度本校コンセプトノート</p> <p>③回覧資料 :</p> <p>回覧資料 1 : 平成 29 年度活動の自己点検・自己評価報告書(点検中項目)</p> <p>回覧資料 2 : 平成 30 年度の各学科運営計画</p> |

| | |
|------------|--|
| <p>議題等</p> | <p>1. 今年度委員の確認（資料1参照）及び本校新任者の紹介等（説明者：事務局高橋）</p> <p>平成30年度の委員は昨年度と同様である。本校は、小田が学科変更により速記コンピュータ科学科長から字幕制作・速記者養成科学科長に変更、吉川が医師事務技術専攻科長を、黒田が診療情報管理専攻科長を、三宅が医療マネジメント科副学科長を兼務、看護科副学科長の伊東、事務局の松本が新たに加わる、との説明が行われた。</p> <p>2. 校長挨拶</p> <p>平成30年度は高等教育機関にとって新たな試練の始まる年と言われている。18歳人口が全国規模で減り始め、東京の高等教育機関に入ってくる人たちの制限するような動き、大学の定員等にも縛りが出てきた。地方でも深刻化している状況がある。いわば高等教育機関にとっては淘汰の時代が始まったと言える。一方で、政治主導で高等教育無償化という動きがある。まだ詳細は決まっていないが、教育の質的保証がなされたところには手当をする、質的に問題があるところは撤退という動きがある。</p> <p>大学の学部の切り売りも可能という中で、専門学校も影響を受けざるを得ない状況である。東京都の場合、今年度から職業実践専門課程を前提に1人当たり4,000円の経常費補助金がようやく始まるという動きが出てきた。そういう流れの中で、本校も残っていかなければならないという現実がある。</p> <p>今年度も貴重なご意見を賜りたい、との挨拶が行われた。</p> <p>3. 前回委員会議事録の確認（説明者：保坂委員長）</p> <p>前回議事録（資料2）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。</p> <p>4. 平成29年度第3回委員会以降の主な経過について（説明者：宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局高橋）</p> <p>平成29年度第3回委員会以降の主な経過について、資料6に基づき報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p> <p>5. 平成29年度活動の自己評価報告書（点検大項目）について（説明者：事務局高橋）</p> <p>資料3について説明が行われた。</p> <p>なお、委員より基準2：学校運営、基準3：教育活動、基準4：学習成果、基準7：学生の募集と受け入れ、基準10：社会貢献について、質問と意見があり、それぞれ担当より説明が行われた。詳細は別紙のとおり。</p> <p>6. 平成29年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方について（説明者：事務局高橋）</p> <p>資料4について説明の後、質疑応答、意見があり、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p> |
|------------|--|

7. 平成 30 年度の重点目標と達成するための計画・方法について（説明者：橋本校長）
資料 5 に基づき説明が行われた。その後、次第 8 の意見交換も兼ねて、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 意見交換など

次第 7 と兼ねた質疑応答が行われた。

9. 次回日程、その他

事務局松本より、次回は 11 月中を予定、次回、次々回については、平日も選択肢に入れた日程調整に協力を賜りたい旨、説明が行われた。

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、閉会した。

以上

平成 30 年度第 1 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

4. 経過報告

○平成 29 年度第 3 回委員会以降の主な経過について、宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局高橋より資料 6 に基づき、以下の報告が行われた。

1. 平成 30 年度の組織運営関連

- ・平成 30 年度校務分掌（別添 A）
- ・平成 30 年度学事日程（別添 B）
- ・平成 30 年度オープンキャンパス実施日程（別添 C）
- ・平成 30 年度クラス担任一覧（別添 D）

2. 自己点検・自己評価関連

(1) 実施日程と実施内容

| 日程 | 実施内容 |
|-----|---|
| 4 月 | □ 4 / 24 : 4 月自己点検委員会 ・平成 29 年度活動の自己点検・自己評価報告書（点検中項目）（回覧資料 1） ・平成 29 年度学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題の進め方記述 |
| 5 月 | □ 5 / 29 : 5 月自己点検委員会 (1)平成 29 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）（資料 3） (2)平成 29 年学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題の進め方進捗（資料 4） (3)平成 30 年度重点目標と達成するための計画・方法提示（資料 5） |
| 6 月 | □ 6 / 26 : 6 月自己点検委員会 ・(1)(2)(3)の学校関係者評価委員会への報告、説明資料準備 |

3. 各学科の運営計画関連

- ・各学科、専攻科は、平成 30 年度の学科運営計画により教育活動と学科運営を行っている。

（回覧資料 2）

4. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・平成 29 年度の重点目標として、年間の退学率 3.5%以下を引き続き設定して退学防止に取り組んだ。

(2) 就職活動の状況

- ・各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる。
- ・平成 29 年度進路決定状況、求人状況（別添 E）
- ・平成 30 年度 W S C P の年間計画・医療秘書科の例（別添 F）

5. 授業アンケート関連

(1) 平成 30 年度前期実施計画（別添 G）

- ・実施時期 6 / 18（月）～22 日（金）※実習等の関係から一部の学科は翌週実施
- ・集計報告 授業科目担当者に単純平均値と自由記述を 2 週間後に報告。
- ・結果のフォロー 常勤教員はコメントシートに記述して 8 月末までに学科長に提出。

- ・次回 11 月の本委員会で結果を報告する予定。

6. 教員研修関連

(1) 平成 30 年度教員研修計画・実績（別添 H）

- ・昨年度と同様に各学科で年度末までの計画を立てている。
- ・8 / 7（火）に教員を対象とした教務委員会主催の 1 日研修を予定している。
- ・3 月にファシリテーション研修を予定している。
- ・今年度は教員だけでなく事務職員の外部研修参加も多くなっている。

(2) 平成 30 年度授業公開（別添 I）

- ・平成 30 年度授業公開実施要領について、資料をもとに変更点等の補足説明が行われた。

(3) AO 入試入学予定者への入学前指導プログラム（別添 J）

- ・平成 30 年度生 AO 入試入学予定者への入学前指導プログラムについて、資料をもとに説明が行われた。

7. 職業実践専門課程関連

| | 医療事務分野教育課程編成委員会 | 福祉分野教育課程編成委員会 |
|------------------|---|--|
| 認定学科 | 平成 25 年度：医療秘書科、医療マネジメント科 (診療情報管理専攻科、医師事務技術専攻科) | 平成 28 年度：介護福祉科 |
| 平成 30 年度 委員構成 | 外部委員：4 名 本校委員：校長、学科長、副学科長、教務委員長、 教科系リーダー、学科教員、事務局長（別添 K） | 外部委員：2 名 本校委員：校長、学科長、学科教員、 事務局長、（別添 K） |
| 第 1 回 | ・ 7 / 26（木）13:00～15:00 | ・ 7 / 18（水）13:00～15:00 |
| 主なテーマ | 1. 委員会における意見、提案への取組について 2. 平成 30 年度の教員研修計画・実績について 3. 平成 30 年度の教育活動と学科運営について 4. 平成 31 年度カリキュラムの編成について 5. その他 | |

○オープンキャンパスについて、宮下事務局長より以下の補足説明が行われた。

- ・30 年度は 54 日程、78 回を予定している。

○就職活動の状況について、宮下事務局長より以下の補足説明が行われた。

- ・内定率は平成 30 年 3 月卒業生が 98.9%、前年度 97.7%で、前年度比で少し上がっている。
- ・求人件数は少し減っているが、求人数は学科の状況に合わせて確保できている。
- ・「キャリアサポートプログラム」は、学科によって就職時期が異なるため、進行を変えているところがある。今回は医療秘書科の例を紹介している。

○授業アンケートについて、事務局高橋より以下の補足が行われた。

- ・実施 2 週間後に各教員に結果を知らせている。
- ・まとめは 8 月 26 日の点検委員会で確認することになっているため、11 月に報告する。
- ・教員の結果に対するコメント記述は、8 月 31 日までに学科長、校長に提出することになっている。

○教員研修について、三宅教務委員長より以下の補足説明が行われた。

- ・30 年度も各学科長を中心に綿密な年間計画が組まれている。
- ・教務委員会主催で、8 月 7 日に「学生を巻きこむ授業を創る」というテーマの 1 日研修を行う。この研

修は 29 年度に本校教員が参加した中堅教員研修の伝達研修としての意味合いもある。教員を対象とし、事務職員の参加は任意とする。

○授業公開について、三宅教務委員長より以下の補足説明が行われた。

- ・事務手続の変更点として、公開レポートと参観レポートは当該科目を開講する学科長にも配信することとした。
- ・兼任教員の参加拡大に向け案を練っているところである。

○AO入試入学予定者に対する入学前指導プログラムについて、三宅教務委員長より以下の補足説明が行われた。

- ・30 年度は看護科の公募推薦入学者を新たに対象に加えて実施する。
- ・退学防止調査票の中から、プログラムに参加したAO入試入学者をピックアップして効果を検証し、30 年度のプログラムに生かしたい。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

(1) 教員研修関連

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|------------------------------------|--|
| □事務職員の積極的な研修参加の要因は、どのようなことが考えられるか。 | □研修内容がニーズにマッチしている。また、事務職員の意欲の向上が考えられる。 |

5. 平成 29 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）について（資料 3）

○保坂委員長より、基本的に大項目別に意見を伺うが、項目が複数ページにわたる場合はページごとに進行する旨、説明が行われた。

○事務局高橋より、資料 3 の構成及び記述経過、網掛けアンダーライン部分を中心に、ご意見とご質問をいただきたい旨、説明が行われた。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

(1) 基準 2：学校運営

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|--|---|
| □学校 P R 媒体の費用対効果は出しているか。 | □媒体ごとの請求状況の効果を分析している。 |
| □「新学事システムとのデータ共有についての検討を行う」とあるが、共有が可能なシステムなのか。 | □最終的に出願の段階でコンバートを行う。現在学内で使っている在学生の管理システムとの連携をとっていく形になる。 |

(2) 基準 3：教育活動

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|--|--|
| □平成 31 年度学校養成施設認定規則等改正に伴う介護福祉科のカリキュラムの見直しに関して、教育課程編成委員会ではどのような意見があったか。 | □養成校は 33 年度から新カリキュラムに変わるため、先行する大学の実施動向を見ながら考えていきたい。人間関係とコミュニケーションの領域は、時間数が 30 時間から 60 時間になるが、どのように行うかは検討中である。 実習日誌についても意見を伺ったところ、現場では記録の I C 化や記録をなくす方向で進んでいるとの話があった。学校としては、介護過程の展開においても記録が重要であることを確認し、これまでは細かい |

| | |
|---|---|
| | 記入内容となっていたが、留学生が3名入学したこともあり、コンパクトな書きやすい形に変更した。 |
| <input type="checkbox"/> 教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会のほかにも外部関係者からの声を積極的に取り入れる仕組みを考えたほうがよいのではないかとと思うが、何か考えていることはあるか。 | <input type="checkbox"/> 実習先訪問での現場の声など、外部から集めた意見を各々が個人で持っているが、共有する仕組みができていない。仕組みをつくらなければならないと考えている。 |
| <input type="checkbox"/> 業界出身の兼任講師と打ち合わせをし、卒業生、就職先との懇談などからカリキュラムをつくっていくということだが、これが実際に機能していけばいいと思うので、再確認してもらいたい。 | <input type="checkbox"/> ご意見として承った。 |
| <input type="checkbox"/> 「教育研究」誌の現在の配付先はどうなっているか。 <input type="checkbox"/> 学校の取り組みを発信するツールとして「教育研究」誌を高等学校に配付してはどうか。 <input type="checkbox"/> ホームページに、「教育研究」誌の取り組みや先生方の声をシリーズで載せるぐらいのこともしてもいいのではないか。 | <input type="checkbox"/> 専任教員、兼任教員、職員の他は国会図書館へ2部である。 <input type="checkbox"/> 外部の目を意識した書き方になっていけばいいが、必ずしもそうでないところもある。基本的に学内向けであることから難しい。 <input type="checkbox"/> 広報媒体の中で考えてもいいと思う。 |
| <input type="checkbox"/> 「昨年度は兼任講師が授業公開に参加したということだが、授業公開のハードルは高くないと早目にインフォメーションすれば、兼任講師の参加が増えるのではないかとと思う。 | <input type="checkbox"/> 昨年度は文書と掲示で案内したが、今年度は昨年度参加した兼任講師のインタビュー等を載せたチラシの準備を検討している。 |

(3) 基準4：学修成果

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> キャリアサポートセンターにおいて平成30年度中に過去5年程度の卒業生に対して就職に対する実態調査を行う予定とあるが、いつどのような調査を行うのか。 <input type="checkbox"/> 40歳前後の人は能力が高く、ニュース字幕をつくる人が多いらしい。その辺の人たちにこの案内が行かないのか。 | <input type="checkbox"/> 進路指導協議会で卒業生のネットワーク化をテーマの一つに掲げており、Gメールで近況や情報をキャッチできないかと考えている。 直近5カ年の卒業生に卒業生支援講座の案内をしており、そこからネットワークを構築したい。 <input type="checkbox"/> 卒業生支援講座については、過去4年間の卒業生に8月25日に実施する字幕制作の仕事紹介の講座案内を7月27日に配信する。 <input type="checkbox"/> 直近の卒業生だけでなく、校友会報にも記事を書いて、ご案内している。 |

| | |
|---|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ネットワークづくりも大事だと思うが、卒業生に対するフォローを強化していただけたらと思う。 | <input type="checkbox"/> ご意見として承った。 |
|---|-------------------------------------|

(4) 基準7：学生の募集と受け入れ

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 医師事務技術専攻科は医療秘書科もしくは医療マネジメント科を経て進む学科で、内部からの進学だと思うが、希望者はいるのか。 <input type="checkbox"/> 医師事務技術専攻科希望者が増えればと思う。埼玉女子短大のほうも、入学が実現すればいい。 | <input type="checkbox"/> 医師事務技術専攻科を選択肢の一つとして掲げる学生はいる。ほかの専門学校卒業生も対象にしていくことも検討したいと考えている。 <input type="checkbox"/> 埼玉女子短大に働きかけたところ、入学希望者はいた。 |
| <input type="checkbox"/> 4月の診療報酬改正により、カンファレンスに際して要件に合った記録をつくれれば病院と福祉事業者双方に加算がつくようになった。ある大病院のカンファレンスでは、その場で入力して終了10分後に記録が配付された。このような記録の形が進んでいくのではないかと感じている。 | <input type="checkbox"/> ご意見として承った。 |
| <input type="checkbox"/> 医師事務技術専攻科の学生に対する説明会は行っているか。 | <input type="checkbox"/> 行っている。 <input type="checkbox"/> より医師に近い医療事務の仕事にシフトしていくという方向を共有していきたい。 |
| <input type="checkbox"/> 「募集広報協議会の開催規模や運営方法の見直しを行う」とあるが、具体的にどのような見直しをするのか。 | <input type="checkbox"/> 1・2年目は広報室、3年目となる今年度は校長主導で、月に1回運営している。教員と広報室の関係上、立場によって意見はあるが、お互いの仕事を知り協調して進めていきたい。 <input type="checkbox"/> 今年度は長いスパンで展望しながら進めている。過去2年間は目の前の募集活動にとらわれていたと感じている。 |

(5) 基準10：社会貢献

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 「ボラ活」の本校ボランティア活動紹介ページは、今後は年に1回か2回更新する予定というのはどういう内容か。 | <input type="checkbox"/> 東専各協会のホームページに情報を載せている。 |

○基準5・6・8・9については、特段意見はなかった。

6. 平成29年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方について
(資料4)

- 事務局高橋より、資料4の構成及び表タイトルの「意見・課題への取組・改善の進め方※1」「現状・進捗状況※2」の記述経過について説明が行われた。
- 保坂委員長より、記述担当から追加のコメント、委員からアドバイスがあればいただきたい旨、説明が行われた。
- 吉川学科長より、以下のとおり追加のコメントがあった。
 - ・保護者との連携に関し、記述に保護者会の開催が9月とあるが、現在、10月の開催を検討している。
- 委員からの質問・意見と回答は以下のとおり。

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 基本方針の現状・進捗状況に関して、具体的検討に入っているか。 | <input type="checkbox"/> まだ入っていない。2-40は象徴的な表現であることを補足的に説明している。 |
| <input type="checkbox"/> コンセプトノートに「これからずっとあなたの歩む道に寄り添う学校でありたい」とあるが、数字より、この手の言葉を前面に出したほうがより心に響くのではないか。この点、検討していただきたい。 | <input type="checkbox"/> ご意見として承った。 |
| <input type="checkbox"/> 安倍政権下の人生100年構想会議とイギリスの作家が書いた『ライフ・シフト』は、2-40に関係があるか。 | <input type="checkbox"/> 関係なくはない。学校、就職、リタイヤ後という3つの流れがある中、人生の意味が変わってきているということに触れ、最近の動向を織り交ぜながら説明をしている。 |
| <input type="checkbox"/> AO入試第1回の課題の作文をリメディアル教育の一環として活用するというのは、具体的にどういうことか。 | <input type="checkbox"/> 作文とリメディアル教育については学内でも意見があり、リメディアル教育の部分を変更するという事で対応したい。 |
| <input type="checkbox"/> マナー指導については、担任がオリエンテーションでテキストを使って指導するだけでなく、教科以外の部分でももう少し考えてもらいたい。 | <input type="checkbox"/> ご意見として承った。 |
| <input type="checkbox"/> 防災・安全管理に関し、神田川の決壊は防災マニュアルに入っているか。 | <input type="checkbox"/> 現在は入っていない。状況を確認し、改定の際に検討したい。 |
| <input type="checkbox"/> 東京都建設局の発表によると、本校は神田川流域浸水予想区域に入っている。マニュアルか頭に入れておいたほうがよい。 | <input type="checkbox"/> ご意見として承った。 |
| <input type="checkbox"/> 募集関連で、次年度募集の入学案内書が複数冊あり、募集に影響しかねない。第三者評価終了の表示、文字の大きさについても、2020年度募集の検討材料にしていただきたい。 | <input type="checkbox"/> ご意見として承った。 |

7. 平成30年度の重点目標と達成するための計画・方法について（資料5）

- 橋本校長より資料5に基づき以下の説明が行われた。
 - ・T P Cの育成と強化は継続する。それ以外では、昨年までは退学防止、教員研修、授業公開の活性化を挙げていたが、退学率は29年度目標を達成し、教育研修、授業公開についても形ができ上がってきた

め外し、新たな目標を加えた。

- ① T P Cの育成に関連して、今年度は特に医療事務系学科の実習を含む教育の流れをディプロマポリシーの観点から見直し、アドミッションポリシーについてもオープンキャンパスで明確に示す。医療事務系の学科を発展させていくためにも重点的に整えていきたい。
- ② 全国規模で18歳人口が減る中で、高校新卒者を対象とした専門課程の教育だけでは教育の規模を縮小していかざるを得ない状況にある。専門学校は、一条校化していく側面もあるが、その一方で専門学校の教育の自由度を発揮した学び直しの講座を試験的に始めていく。従来の専門課程以外の講座で教育の幅を広げていきたい。
- ③ 校長、校長室が中心となって、教職員全体会、募集広報協議会、進路指導協議会を円滑に回していく。学校として存続するために、先のことを考えながら動くということを全員で共有し、協調を進めていきたい。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 学び直しの講座を下期から試験的に始めるということだが、具体的にどのような講座が予定されているのか。 <input type="checkbox"/> 調剤事務に限っているのか。 | <input type="checkbox"/> 調剤事務の講座を想定している。 <input type="checkbox"/> 限っているわけではない。学内にある有形無形の財産をうまく使い、卒業生のネットワーク構築も意識しつつ、バリエーションはいろいろ展開したいと考えている。 |
| <input type="checkbox"/> 昼間の学生より夜とか休日返上で来る方が学びたいという気持ちがより強いような気がする。取り組みを強化していただきたい。 | <input type="checkbox"/> ご意見として承った。 |
| <input type="checkbox"/> 3つ目の重点目標、ビジョンの共有とアクションプランの策定の文言は、一般的・抽象的な印象を受ける。場や機会の提供が具体的になることを期待したい。 | <input type="checkbox"/> ご意見として承った。 |

以上